

平成 23 年度 生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業(グリーンエキスパート)

「知床国立公園生態系保全対策事業」

ホームページ掲載用開催報告

<しれとこ科学教室 第2回 開催概要>

タイトル：「シカが知床の風景を変える」～エゾシカの急増と植生への影響～

講師：弘前大学白神自然環境研究所 教授 石川幸男（いしかわゆきお）氏

開催日時：平成 23 年 8 月 17 日水曜日 9：30～12：00

場所：斜里町岩尾別 フレペ遊歩道

<講座内容の概要>

しれとこ科学教室 2 回目は科学委員会委員であり、エゾシカ・陸上生態系と適正利用・エコツーリズムの各ワーキンググループ委員を務められている石川先生とフレペ遊歩道を散策しながら、実際に現場で科学委員会の専門家からエゾシカが植生に与えている影響について解説していただきました。

最初に鳥獣保護区管理センターにおいて、まず基礎知識として知床の植生とエゾシカが植生に与えている影響について、知床岬の風景の移り変わりの比較写真など、スライドを使って先生からレクチャーしていただきました。

その後、参加者 16 名と一緒にフレペの滝遊歩道を散策しながら、先生の解説を聞きました。植生調査とは実際にどのような方法でどのような項目を調べるのかといったお話や、エゾシカの影響がほとんどなかった 1980 年代初めや 4 年前に実施した調査の際と今回とでどのような変化が見られるかなどといった点、ハンゴンソウやキオンなどのキク科植物やワラビといったエゾシカの好まない植物が優占し、観察種数も限られ植生が単純化したこと、一方で場所によっては開花や種子をつけるまでには至らないものの、優占している植物の陰でひっそりと生き延びている種もいるなどといったお話をききました。

石川先生は 4 年前の調査に比べ、ワラビの勢力がさらに増している印象を受けたとのことでした。また先生の解説の中で、オオヨモギ、カラマツソウの仲間やナガボノシロワレモコウなどエゾシカに食べられ姿を消したと思っていた植物が、エゾシカの好まない草の下に小さくなりながらも次々と発見された時には、参加者の皆さんも地面に這いつくばって、どうにか生き伸びている姿を見てちょっとほっとする一方で、この状態でどれぐらいの年月持ちこたえていられるかは未知数という先生の言葉に、ちょっと複雑な気持ちになっていました。

ここ 20～30 年ほどの間に大きく変わってしまったフレペ遊歩道周辺の景観ですが、エゾシカによる影響を軽減すれば失われつつある植物が見られるようになり過去の景観を取り戻すことが期待できます。既にしれとこ 100 m²運動地においては柵でエゾシカが入れない区域を作り景観再生の試みが行われ一定の成果が見られます。石川先生からは、遊歩道

の隣接した一角を柵で囲ってエゾシカの影響を排除し、遊歩道の散策者からも柵内外での効果を比較できる場所を作ってはどうかとの提案がされました。



